



ライルオルガン製作所社長

ハンス・ライル

ライルオルガン製作所は、83 年の歴史をもつ家族経営の工房です。ライル哲学は、限りなく人々の声に寄り添う、会衆賛美を支えるためにふさわしい楽器を製作するというものです。パイプは人間の声と同じように、風の流れるによって「歌い」ます。私たちは、オルガンが美しく、暖かく、自然な音を奏でるために、全てのパーツを自社で手作りし、全て自然の素材を使うという鉄則を守り続けています。

このオルガンは 5 年以上の長い道のりを経て完成を迎えました。仙川教会のオルガンのアイディアは、2008 年に完成した神奈川県の翠ヶ丘教会のオルガンのデザインと響きと音の明澄さをベースにして発展させています。

オルガンを設置する過程において、直接新礼拝堂の設計会社や施工会社の皆様と話し合いを重ねられたことは、非常に大切なことでした。私は仙川教会のパイプオルガン委員会及び建築に携わった方々が、暖かさや情熱をもってプロのお働きをしてくださったことに心から感謝しています。

どのような音を創るかについては、長い時間をかけてアドヴァイザーやパイプオルガン委員会の皆様、そして私たちの工房で考え、話し合ってきました。最終段階である、教会で音のバランスを整える整音作業は、全ての異なるストップが各々の音色をそれぞれらしく、この教会に最も合う音で鳴るために、非常に緻密な作業となりました。こうして全てが結集され、仙川教会ならではのオルガンが誕生したのです。

このプロジェクトに関わってくださった全ての皆様に、心から感謝いたします。私は全過程において、常に全ての人々に対してポジティブな印象を持っていました。そして私はこのプロジェクトのために、非常に熱心に働いてくれた私の工房の従業員たちにも感謝をしたいと思います。このオルガンの構想が始まった時から完成に至るまでの、この素晴らしい、忘れ得ない時が与えられたのは、様々な形でこのプロジェクトに関わり、オルガンのことを想い、祈り、支えてくださった方々がおられたからこそのことだと思います。そしてこのオルガンが完成して以来、仙川教会の皆様が積極的に深い感動をもってオルガンを弾き、また聴いてくださっていることに、私は心から感激しています。音楽による神さまの息吹がもたらされたのでしょう。

仙川教会の皆様にとって、このオルガンが長きに渡って神さまをほめたたえ、賛美するために、音楽的なインスピレーションを与え続けるものとなりますよう心から祈り願っています。

オルガン仕様

設計・製作 ORGELMAKERIJ REIL B.V.
(ライルオルガン製作所・オランダ)

完成 2017 年 5 月 23 日

第 1 鍵盤 (C-f3)	第 2 鍵盤 (C-f3)	足鍵盤 (C-d1)
Prestant 8' (C-F comb.)	Holpijp 8'	Subbas 16'
Roerfluit 8'	Viola di Gamba 8'	
Octaaf 4'	Fluit 4'	
Octaaf 2'	Nasard 3'	
Mixtuur		



Koppel II/I、I/P、II/P
Tremulant
ストップ数 10
パイプ総数 561 本
調律法 Bach naar Barnes
風圧 51mm

監修 : Hans Reil
組立 : Reemt Tuinmann
Hanno Reil
Nick Berends
整音・調律 : Jan Koelewijn
Henk van der Veen
設置アドヴァイザー : 関本恵美子

ライル社はオランダ東北部ヘールデにあるオルガン製作所。
1934 年創業で現在は 3 代目のハンス・ライル氏が社長を務める。
28 人の技術スタッフが、オランダのみならず、ドイツ、オーストリア、
ノルウェー、フランス、日本、カナダ、ニュージーランドでオルガンの製作
と修復を手掛けている。
日本ではこのオルガンが 17 台目の設置となる。

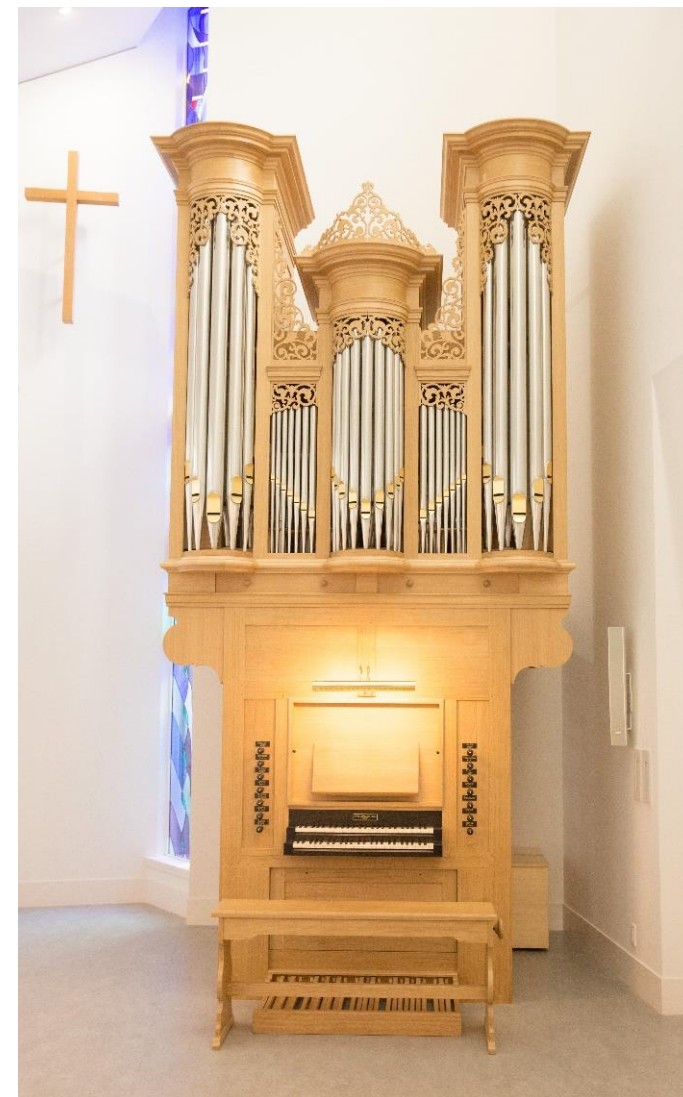
日本基督教団 仙川教会

〒182-0003 調布市若葉町2-27

Tel:03(3300)8150 Fax:03(3300)3125

<http://www.sengawa-church.jp>

オルガン撮影 : 森田真衣



日本基督教団 仙川教会

パイプオルガン

オルガン奉献に寄せて

日本基督教団 仙川教会
牧師 大串肇

「息あるものはこぞて主を賛美せよ。ハレルヤ。」（詩編 150：6）

宗教改革 500 年祭という記念すべき年に、わたしたちは礼拝堂を新たに建設し、パイプオルガンを設置致しました。

宗教改革者 M・ルターは、聖書に基づく説教を通して福音を宣べ伝え、神を賛美することを説きました。以前ルターやバツハの活躍した旧東ドイツの教会を訪問した時、長い間東西に分断され、抑圧されていた教会が懸命に再建に励む姿に出会いました。彼らは、ルターの訳した聖書を受、説教を通して力強く福音を語り、パイプオルガンによって神を賛美し、バツハの曲等を演奏して人々に伝道していました。説教と賛美。これが 500 年を経ても変わらないドイツプロテスタント教会の伝統であり、宗教改革の精神です。

ところで、前掲の詩編 150 編は、いろいろな楽器をもって神を賛美するために、「ハレルヤ」（＝「主のほめたえよ」）という呼びかけをもって結ばれています。また、イザヤ書 6 章では、「聖なるかな」の合唱が神殿の中に反響しています。その中でイザヤが預言者とされました。この情景が、ドイツ・バロック様式の礼拝堂の原型になりました。神殿という礼拝の場で、いろいろな楽器を用いて、誰ひとり区別もなく、声をつ一つにして神を賛美する。この原型は宗教改革の時代よりも更に古代の礼拝、聖書の源流に遡ります。

皆が声を合わせて一つになる。これが神賛美の本質です。神賛美の世界には美しい音楽を奏でるオルガンのような楽器は必要であっても、ミサイルや兵器は必要ありません。差別や格差も要らないのです。まさに「息あるものはこぞて！」—人類だけでなく一生きるものすべてが神を賛美することに招かれています。この究極の愛と平和とが、神賛美の通奏低音になっているのです。わたしたちは今、新しいオルガンをもって心から神を賛美し、世界の平和のために祈りたいと思います。



ライル社工房で製作中



お台場でコンテナから
トラックに積替え



パイプオルガン設置の経緯

- | | |
|-------------|--|
| 2011 年 11 月 | パイプオルガン委員会設立、パイプオルガン導入のための調査、協議を開始。 |
| 2012 年 4 月 | 2012 年度定期総会で新会堂にパイプオルガンを設置することを可決承認。 |
| 2012 年 7 月 | オルガン設置アドバイザーを関本恵美子氏（恵泉女学園大学准教授）に依頼することを決定。あわせてオルガニスト養成のためのオルガン講習会講師を依頼。 |
| 2012 年 12 月 | 会堂建設にあわせライルオルガン製作所のパイプオルガンを導入することを臨時教会総会で可決承認。ライルオルガン製作所と正式に契約（12 月 19 日）。 |
| 2015 年 3 月 | ライルオルガン製作所社長ハンス・ライル氏による講演会開催（3 月 21 日）。 |
| 2016 年 3 月 | オランダのライル社工房でオルガン製作開始。 |
| 2017 年 3 月 | 工房で完成したオルガンが一旦解体され、コンテナに積み込まれてロッテルダム港出港（3 月 8 日）。 |
| 2017 年 4 月 | 東京・大井埠頭入港（4 月 18 日）、通関手続き。 |
| 2017 年 5 月 | 教会へ搬入、組立作業開始（5 月 3 日）。整音終了、オルガン完成・鍵の引き渡し（同 23 日）。 |
| 2017 年 6 月 | オルガン奉献（6 月 18 日）。 |



教会内へ搬入



一番重い風箱を設置

礼拝堂での組立の様子



組立終了



整音終了、オルガン完成